

ひろの

議会だより

祝
広野町成人式



祝成人!!ふるさと広野で夢誓う(広野町成人式)

P5 復興を図るための補正予算を可決(12月補正予算)

P6 安全・安心に向けた取り組みを(定例会質疑)

P10 今後の町政運営や支援体制は6議員が町政を問う(一般質問)

No.136

平成30年1月26日発行
福島県広野町議会

E-mail gikai@town.hirono.fukushima.jp

新年のごあいさつ

広野町議会議員 黒田政徳



平成三十年の年頭にあたり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。町民の皆様には、輝かしい新春を迎えられたこと心よりお慶び申し上げます。

太平洋沿岸に巨大な津波を引き起こし、福島第一原子力発電所に致命的な損傷を与え、未だ多くの人々に不自由な生活を余儀なくした大地震からまもなく七年が経過しようとしております。

昨年を振り返りますと様々な復興事業が完工し、そして新たな事業への着手も相次ぎ、着実な復興への歩みが形として目に見えるようになり、本町の復興・再生がまた一歩進展した一年でありました。

三月には、応急仮設住宅等の供与期間が終了し、約八割の町民が帰町されました。

しかし、様々な事情により約二割の皆さんが引き続き避難生活を継続することを選択することとなりましたが、まだまだ本来の生活に戻るには時間が必要かもしれません。

町議会といたしましては、「広野に戻って良かった」「やっぱりここに住んで良かった」と実感できる施策の実現に向け、行政と共にふるさとの復興と再生に総力を結集して取り組んで参ります。

課題は、数多くありますが、皆様の力強いご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様にとりまして、本年が幸多き一年となり、さらなる飛躍の年となりますよう、ご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。

12月定例会

平成29年第4回議会定例会を12月14日から15日までの2日間の会期で開きました。

今回は平成29年11月19日に執行された町長選挙後、初の議会開催となり、遠藤 智町長が所信表明と経過報告を述べ、一般会計・特別会計補正予算を含む全12議案が提出され、慎重審議のうえ全て原案のとおり可決しました。

また、一般質問では6人の議員が、それぞれ町の対応や考えを問い質しました。

全会一致で可決

一般会計及び3特別会計を合わせ

2億3330万円を減額補正

補正の内容

平成29年度一般会計補正予算並びに3つの特別会計予算は、主に東日本大震災及び原子力災害からの復興を図るため、歳出の主なるものは、帰還環境整備交付金基金費、障がい者福祉費、除染対策費、学校管理費などの増額、並びに財政調整基金費、認定こども園費、道路維持費などの減額です。

歳入の主なるものは、県補助金、基金繰入金などの増額、並びに地方交付税、国庫補助金の減額となっています。

補正の結果

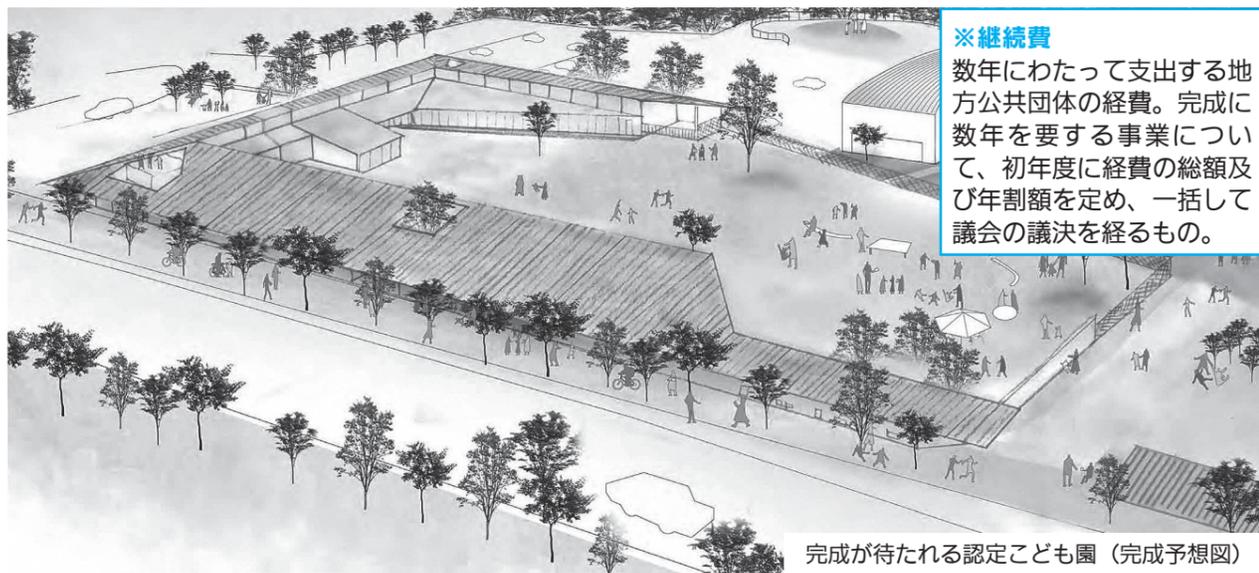
Table with 3 columns: 会計名, 補正額, (補正後の予算額). Rows include 一般会計, 国民健康保険特別会計, 介護保険特別会計, 後期高齢者医療特別会計.

歳出の主な内容

- 帰還環境整備交付金基金費 (認定こども園整備事業に係る基金造成費) 2億5868万円
○認定こども園費 (2カ年の継続事業とするため ※継続費設定による減額) ▲6億2727万円
○除染対策費 (減容化処理施設解体等の負担金) 1億2196万円
○防災対策費 (Jアラート(全国瞬時警報システム)の更新事業費) 590万円

※継続費

数年にわたって支出する地方公共団体の経費。完成に数年を要する事業について、初年度に経費の総額及び年割額を定め、一括して議会の議決を経るもの。



完成が待たれる認定こども園(完成予想図)

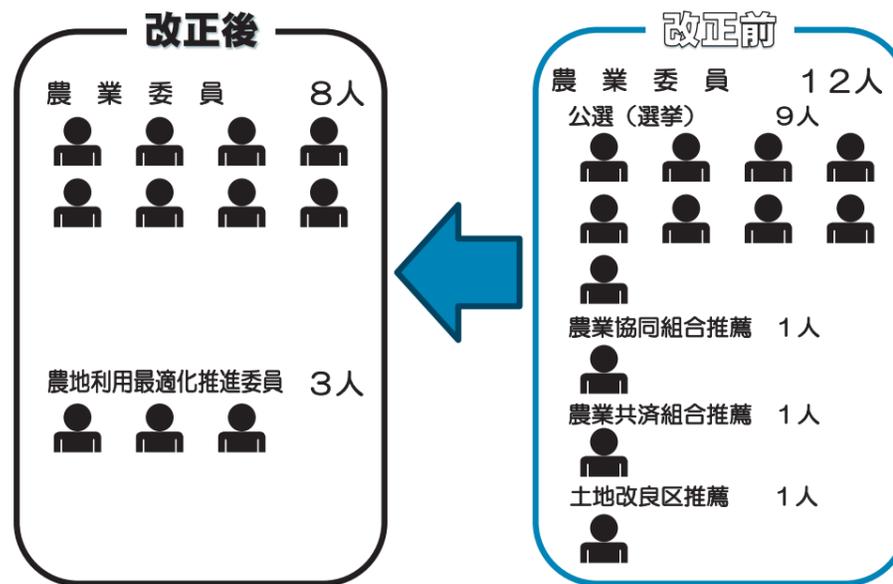
●広野町農業委員会の委員等の定数に関する条例を制定

農業委員の定数が変わります

主な内容は

「農業委員会等に関する法律」の一部改正により、農業委員の選出方法が選挙による公選制から、町長が町議会の同意を得て任命するものと変更されるとともに、農業委員とは別に新たに農地利用最適化推進委員を新設し、農業委員会の委嘱により、それぞれ選任されることになり、その条例の制定が可決されました。

なお、この条例は平成30年7月8日から施行されることとなります。



議案第82号

工事の名称

久保田1号線道路新設舗装工事

施工場所

下北迫字久保田地内

工事請負代金

53,352,000円を50,658,480円に変更(2,693,520円の減額)

工期

着工 平成29年6月17日
完成 平成30年1月31日(変更なし)

請負者

株式会社金村組(変更なし)

●工事請負契約の変更

工事請負変更契約を可決

久保田1号線の起点は、町道築地〜新町線と接続されますが、築地〜新町線の舗装工が来年度に施工されることから、取付部の手戻りを無くすため、舗装工と防護柵工の施工を見送ることにより減額する変更契約の議案を可決しました。

12月定例会

ごんなぐじが決まりました

補正予算

旧広長住宅跡地はどうなる

門馬 巧議員

旧広長住宅の跡地の借地料は現在支払っているのか。

支払っているならば、何か構築する計画があるのか。

ただ計画がなく、支払い続けるのは非常に無駄な出費と思われるがいかがなものか。

大和田総務課長

町の方で土地を借り上げて借地料を支払っています。

中津復興企画課長

この土地は、駅東側の復興拠点整備区域に近接しています。

現在、駅東側にふさわしい土地利用の計画を検討していますが、その間に民地に渡ってしまうと環境そのものも損ないかねないと危惧され、一体的な土地の有効利用を図るために借地としています。



復興が進む駅東側

条例

広野町帰還環境整備交付金基金条例

こども園限定の基金か

渡邊正俊議員

この基金は認定こども園整備事業にだけ活用できる基金なのか。

中津復興企画課長

この基金は目的基金となっており、認定こども園を整備するため活用できるものです。



認定こども園整備予定地

広野町農業委員会の委員等の定数に関する条例

認定農業者の条件は

門馬 巧議員

自分で田んぼや畑を耕作していなくても認定農業者になり得るのか。

渡邊産業振興課長

水田の他、畑や園芸、畜産等さまざまな業種があり、提出していた計画書に基づき適正であるか判断して認定しています。

委員定数どう決めた

渡邊正俊議員

農業委員定数は、半分を目標に削減するつもりだったが、今回改正があった新しい農業委員の8人という選定は、どのような形で行ったのか。

渡邊産業振興課長

広野町では、現在9人（公選）の農業委員の方に活動していただいています。国の通達があり、1人減の8人としたところです。

委員の年齢制限は

阿部憲一議員

農業委員会の委員、推進委員の年齢制限は設けるのか。

渡邊産業振興課長

現在のところ年齢の制限を設けることは考えていません。

消防自動車を整備せよ

小磯利雄議員

先般、つなぎポンプの訓練があったが、なかなか水が上がらず、消防車の能力が非常に厳しいという話もあった。

中津復興企画課長

交付金を活用した年度計画に基づき、計画的に配備していきたいと考えています。

町内において高機能な消防車の採用や更新等考えられないのか。



安全を守る町内の消防車と消防団員たち（平成30年出初式）

何が変わったか

北郷幹夫議員

支給資格が児童から保護者になることその他に変更はあるのか。

鈴木こども家庭課長

支給対象者を児童から保護者へ変更したこと他に、現在の条例では対象者が「重度心身障害児」となっており、かなり範囲が狭かったことから、もう少し拡大するために「心身障害児」と変えたことが大きな違いです。

支給金額は少なくなっているのか

門馬 巧議員

支給金額は前条例のままである。もう少し家族の思いを考えた金額にできなかったのか。

町 長

さまざまな手当等の基準にしたがって適正な金額としましたが、更なる重厚さが求められることが確認できれば、前向きに捉えていきます。

対象人数は

小磯利雄議員

この新しい条例の対象者は概算でどのくらいになるのか。

鈴木こども家庭課長

現在支給を受けているのは18人ですが、今後見込まれる対象者は38人です。



農業委員による農地パトロール

委員会報告

動状況を報告します。

平成29年11月7日(火) 午前開催

平成29年11月8日(水) 午前開催

各常任委員会の活

総務文教常任委員会

産業厚生常任委員会

総務文教

計

画変更も視野に迅速に開発を
広野駅東側開発

町より駅東側の第1期開発地区について、集合住宅10棟114戸が平成29年9月に完成し、スターリングパトナースによるホテル建設は平成29年8月に着手。広野駅東口広場整備事業については平成29年6月に着手し平成30年2月に完成予定との説明がありました。

また、第2期開発地区については、町内に新しい住宅用地の整備を行う必要が生じていることから、農振除外に必要な同意書の締結が83%、用地取得については57%となっており、「ふたば未来学園宿舎」については、造成工事を早期に着工するため、同区域を2工区分けて進めていると

総務文教

緊

急避難的な用地の確保を
工業団地・東町地区産業団地整備事業

の説明等がありました。委員からは、みらいの架け橋に目隠しを作るとのことについて、近代農業ゾーンの新たな土地利用の検討とは何か、駅東側の水田への水路や排水は今現在の整備されているのかなどの質疑がありました。委員会としては、目途を持って計画変更も視野に入れ、迅速に開発を進めるよう要請しました。



みかん狩り(幼稚園)

委員からは、具体的に何社からの引き合いがあるのか、進出企業の操業開始時期は、多目的に利用できる緊急避難的な用地の確保も必要では無いかとの質疑があり、復興企画課長からは、進出企業の創業時期については建屋の設計変更協議に時間を要したため来月5月にずれ込むことと、町としても多目的に利用できる用地は残さなければならぬと考えているとの説明がありました。

産業厚生

ほ

場整備に利用する場合の費用負担は
防災拠点・道の駅造成事業

各委員より、調整池を設ける考えはないのか、盛り土材としての利用可能とことだが搬出等の費用負担は、ほ場整備への利用については地権者費用負担は発生しないのか、第1期工事の着工予定日と第2期工事予定日についての質疑がありました。担当課長より、調整池については現場状況

を見ながら、計画通り上流・下流側に調整池を整備します。盛り土材として町外に搬出する場合は、事業ごとに協定を結び相手側が負担することになる、ほ場整備事業は県が事業主体であり、地権者負担なしの事業であることから協議を進めて行きたい。また、第1期工事の

着工は「公有地の拡大の推進に関する法律」の適用により税金の猶予期間、売買契約、賃貸借契約などの整理後、林地開発と採石法の許可を平成30年3月を目指しており着工はその後であり、2期工事は平成30年に調査・測量・設計の予定であるとの説明がありました。

各委員より、平面設計により課題等の発生していないか、今後の入園予定児童の推移について、他町村から避難されている子どもは何人位いるのか等の質疑がありました。担当課長より、設計は完了し、実施設計の最終チェックを行い内部材質の検討をしているとのこと。施設全体の定員は136人であり、町の子ども・子育て支援計画の中で推移を把握し、出生数等を加味しながら求めたものであり、本町においては全国で問題になっている「待機児童」の発生は無いように行きたいとの考えである。他町村から避難をされている未就学児は6人との説明がありました。

産業厚生

デ

イサービスの内容充実を
高齢者対策

各委員より、前年比較被保険者数の減少と退職者保険終了によるその後の推移について、生活相談員による丁寧な訪問活動要請と広桜荘受け入れ体制・医療環境向上推進事業について、平成27・28年度に於いて県内高額医療費が第1位であったことについての質疑がありました。担当課長より、被保険者が減少した理由は作業員の方々が国民健

康保険から社会保険への移動が要因であること、広桜荘の活動については今後高齢化が進むため、介護・福祉各計画を見直し、サービスを図り、住民に寄り添った生活支援訪問活動を進めるとのことであり、また、医療環境向上推進事業については当初予算の範囲内で収まる見込みとのことでした。高額医療費については、疾病、肥満、高血圧

糖尿病などの生活習慣病を起因とする医療費増加があげられ、さらに関節等の治療入院が目立っており、近隣町村で医療費が減少傾向にある自治体があることから確認のうえ報告したいとの説明がありました。委員からは、どのような行政政策を行って、結果に結びついたのかを調査研究してほしいと要望がされました。

他 町村からのこどもの受入を
幼保連携型認定子ども園整備事業

各委員より、平面設計により課題等の発生していないか、今後の入園予定児童の推移について、他町村から避難されている子どもは何人位いるのか等の質疑がありました。担当課長より、設計は完了し、実施設計の最終チェックを行い内部材質の検討をしているとのこと。施設全体の定員は136人であり、町の子ども・子育て支援計画の中で推移を把握し、出生数等を加味しながら求めたものであり、本町においては全国で問題になっている「待機児童」の発生は無いように行きたいとの考えである。他町村から避難をされている未就学児は6人との説明がありました。



北郷幹夫 議員

新年度予算

二期目の町政舵取り役としての考えは

町長／財源をしっかりと捉えた予算執行

北郷

二期目の町政の舵取りを負託された町長は、新年度の予算編成時期を向かえ、①予算編成の基本方針と予算編成方法はどのようになっていますか。②予算編成における重点施策は。③一般会計の歳入は、平成29年度当初予算と比較してどのように見込まれますか。

町長

①復興・再生事業を最優先に、それ以外の事業は限りある財源を再認識し、事業の必要性・優先度を十分に検証することを基本方針としています。編成方法は、担当課で予算計上し、財政担当が聞き取りを行い、町長、副町長が査定します。②認定こども園整備、森林再生、ほ場整備、小滝平浄水場整備です。③法人町民税は増収が見込まれますが、広野火力発電所の固定資産税が減収見込みとなり、全体で8,200万円の減収見込みとなっています。

化石・文化財

「化石のまち」を後世に伝えよ

町長／資料の活用・交流の場を検討

北郷

昭和61年に恐竜の歯等多くの化石が採集され「化石のまち」として全国から注目を浴びました。現在は役場ロビーに骨格標本等を展示していますが、①化石等の保管場所や管理はどのようになっていますか。②後世に伝えていくため、展示室を整備する必要があるのではないですか。

町長

①劣化や破損防止のため空調設備のある役場資料室に保管し、常時施錠して管理しています。②時期によって展示を変えるなど資料の活用を図りたいと考えています。また、昔から続く習わし、町の様子など歴史文化が失われてしまわないよう、交流が図れる設備を検討します。



30年前、私も町のキャラクター。

北郷

国保税や医療費等減免、高速道路無料化等、国へ要望活動を行っていますが、震災以前の生活を取り戻し、安心して暮らせる状況になるまで継続すべきと考えます。

町長

復興大臣をはじめ関係大臣、原子力災害現地対策本部長に対し、医療費一部負担金、国保税・介護保険料等の免除措置、高速道路の無料措置の継続について、要望活動に取り組んできました。今後も医療費等の減免等について強く要望していく考えです。

減免措置

継続を強く要求すべき

町長／今後も強く要望していく

追跡レポート

あの質問 どうなった？

議員の質問・提言に答える町執行部、その答弁がその後どうなったのか？ どう町政に反映させているのか、対応を追跡しました。

●平成28年3月定例会 一般質問 遠藤 浩 議員

道路標示を改善せよ

渋滞の国道・県道から、駅前の町道に回避したり、制限速度以上で走行する車両があり、歩行者には大変危険です。道路標示の改善を早急に変更すべきと考えます。

県・公安委員会と協議し取り組む

横断歩道などの道路路面標示も速度抑制効果があるため、県及び公安委員会の協議を踏まえて取り組みます。

●平成28年6月定例会 一般質問 北郷 伯弘 議員

減速帯を設置せよ

渋滞を避けて旧道を通る車を見かけ、また、町道脇の人たちは横断することができないと語っています。スピード抑制のための減速帯を設置できませんか。

速度抑制の路面標示を実施する

J R 広野駅前旧道全体の現況を確認し、県・公安委員会と協議を踏まえ、「減速」の路面標示を実施します。

「ゾーン30」エリア設定

広野駅前通りから国道6号線、旧馬場医院から桜田までの区域内の道路が、最高速度30キロに制限される「ゾーン30」指定区域に設定され、道路の路面や、標識で表示されています。

ドライバーのみなさん、交通ルールは守りましょう。



一般質問は、公の場である議会で、議員が議題に関係なく、町長の考え方や町政の執行状況について説明を求めたり、所信を問いただすものです。

一般質問席（広野町議会議場）



渡邊正俊 議員

方針・取り組みはいかに

町長／医・職・住の充実を重視し進める

町政進展

今後4年間の町政進展に向けた方針と、ふる里復興、創生実現として進展に向けた取り組みはどのように執行されるのですか。

渡邊

安心して暮らしていくけるよう、医療・福祉の『医』、職業・雇用の『職』、住まい・住環境の『住』の充実を重視して各種施策を進めます。

町長



門馬 巧 議員

運転免許証

自主返納者への施策を

町長／支援策を検討していく

門馬

高齢運転者による事故はなかなか減らず、ハンドル操作、踏み間違い、認知機能低下が原因と思われる事故も少なくないと言われています。この状況から免許証の自主返納後、生活の不便が緩和されるように次のような、タクシー利用(町内事業所に限る)施策ができませんか。

- ①使用目的限定のタクシー券を発行。
- ②月ごとの利用回数に上限を設定。
- ③一回ごとの利用金額に上限を設定。

県立ふたば未来学園での中高一貫の教育が目前に迫るなか、広野中学校の在り方、校舎、教育プログラム等の検討、方向づけを決める時期に来ていると思うが、どのように考えていますか。

渡邊

あり方の方向性を決めよ

教育長／検討重ね学習環境を配慮していく



本来の中学校校舎

教育長

ふたば未来学園と、中学校の本来の校舎での授業再開を見据えた異校種間の連携を、継続・深化させる学校の在り方について、検討を重ねています。また本来の中学校校舎は、ふたば未来学園側で原型復旧の改修工事を予定しており、生徒が快適に学習できる環境づくりに配慮していきたいと考えています。

中学校

町長

運転免許証の自主返納は、広野町の地域性から、通院や買い物など、不便をきたすと懸念しますが、高齢者本人の交通事故の未然防止と、地域住民が安心・安全に暮らすために重要であるため、運転免許証の自主返納が進むよう、支援策を検討します。

生活支援

独居高齢者世帯のごみ収集は

町長／要望に対応している

門馬

我が町の独居世帯の高齢者の中で、疾病、身体的不都合による歩行困難で、日々の生活ゴミ等の排出に困っている方を見聞きしています。この実態を早急に調査把握し、収集排出策を講じ日々の生活を衛生的、かつ、快適感を持って暮らすことができる施策はできませんか。

町長

高齢者等の要支援の状況、健康状態の把握に常に努めており、また、生活支援相談員や民生委員が、高齢者世帯等を訪問し、健康の確認や困りごとの相談を受けながら、ゴミ搬出についての要望があれば、対応しています。



給食費

無償にせよ

町長／財政状況を踏まえ検討していく

門馬

給食は、食育につながり、衛生面・協調性が育まれます。子どもたちを社会の宝として地域全体で育て、次代を担う人材育成につながる政策として保護者の負担軽減を図ると共に、町長が掲げる「命を守り、人を活かし未来を創る町」として給食費無償化の施策を、次年度の目玉として取り入れることができませんか。

町長

学校では、一定の所得要件で、国の全額補助支援を、幼稚園では、震災当時、広野町に住民票があった世帯へ町が全額補助しています。学校給食の支援は、国の制度での対応を考えており、国や県に継続を要望していますが、国の補助制度が終了した場合は、財政状況を踏まえながら、前向きに検討します。



重要な役割を持つ林道

今後の方針はどうなる

町長／計画的な維持管理に努める

渡邊

山林火災時等の林道の重要性は、過去の例に見て大事であること認識していますが、今日様々な状況のもと原因はあるものと理解しますが、いたるところの林道の荒廃が見受けられます。車両等の進入できる最低限の取り組みが必要と思われるが、今後の方針を伺います。

町長

町管理の林道は、路肩の除草や道路側溝の清掃などの維持管理を行っています。林道は、森林の整備と保全、治山・治水、山林火災の防止など、多面的機能を持ち大変重要であることから、現状を調査し、計画的な維持管理に努めていきます。

林道



たくさん食べて大きくなあれ。(幼稚園給食)



遠藤 浩 議員

通信環境

向上のための支援はいかに

町長／需要が高まれば補助制度を検討

遠藤 現在町内には、町民の方々が双葉郡内住民の方々、ふたば未来学園の学生、復興関連の従事者等、8千人を超える方々が生活をしており、また、国際フォーラムの開催や広野未来創造リサーチセンターの設置、東京オリンピック・パラリンピック開催等、これまで以上に交流人口が増加することが想定されます。

そこで、町内の民間事業者などを対象にフリーWi-Fi（自由に使える通信回線）などを補助して通信環境の向上を支援してはいかがですか。

町長 今後、本町を取り巻く環境の変化を踏まえ、需要が高まるようであれば、民間事業者への補助制度を検討したいと考えます。

義務教育必需品

補助制度を検討すべき

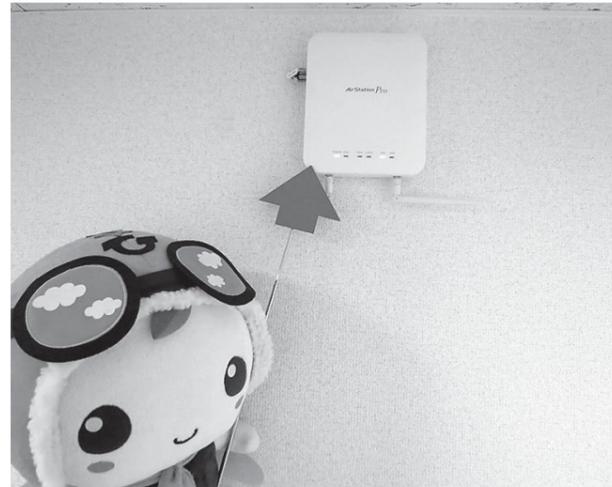
教育長／財政状況は難しい、違う形で支援している



小学校運動会

遠藤 「子供たちの未来への投資」とする観点から教育費や義務教育必需品の補助制度をぜひ、検討すべきと考えます。

教育長 町の財政状況では義務教育必需品の全児童生徒への支援は難しいと考えています。町独自で、校外学習の交通費、英検などの検定料などの支援を行っています。



庁舎内にある通信機器

そこで、学校指定の運動着や運動靴などを進級の年度に1回支給するような補助制度を制定することは出来ませんか。

③県は小児甲状腺癌の子供の市町村名を非公開にし、これでは議会が町に対応を質すこともできず、患者の総数も不明になります。県に対してこれを改めること、調査外にしている子供たちの把握手段の確立を求めるべきではないですか。

ければ何も進まず、逆に、殺処分ゼロを達成した自治体では首長の意識が高いのです。さて、誰が何をどうすれば殺処分ゼロが具現化すると思えますか。

町長 愛護センターで保護した犬猫は、飼い主の早期発見のためインターネットを活用し情報提供をしています。飼い主が判明しない場合は、飼い主を募集し、一定期間経過した場合、県動物愛護センターで終生飼育するので、殺処分は行っていません。



生まれた命を大切に

①国際的な専門機関の安全基準等で策定した国の法令に基づき、適正な行動をしているのでマスクは現在必要性はないと受けとめています。

町長

阿部

防護策と情報把握手段の確立を

町長／法令に基づき適正に対応

放射線

県内の甲状腺癌の子供は県の調査等で二百人を超えました。しかも、甲状腺外への浸潤、リンパ節・肺等への転移が92%を占めます。しかも、県は異常ありとした子供の約7割を経過観察にして検査対象から外しています。また以前、この発症割合は浜通りも会津も地域性はないとの県立医大の見解が新聞等で発表されましたが、肝

心のヨウ素による内部被曝を無視し、いわきと会津を一つの地域とした間違いぶりです。その後県は、検査2巡目での発症割合は当町を含む沿岸部等の13市町村が最も高いと発表しました。これに対して、その原因は、1. 2号機間の地面から高線量の水蒸気が吹き出し、原子炉建屋からは放出が続き、郡内では何度も面的に空間線量率が大きく上昇し、住民はこれらを常に吸

引して、汚染された阿武隈山地からの水道水を飲んでいたりなどのためではないか、この指摘が出されています。①なぜ平時から住民にマスクをさせるなど放射線防護をやるつもりがないのですか。

②空気・飲食による内部被曝を無視して、クイックセルバッジで年間1mSv以下だから安全かのような評価を続ける放射線健康対策委員会は即刻解散すべきではないですか。

犬・猫

殺処分ゼロが具体化するには

町長／生存の機会を与え、殺処分は行っていない

阿部 殺処分は現実には安楽死ではありません。今、舌でべろべろ手を舐めていた犬や猫が30分後には灰の砂となるのです。迷子になった犬や猫を殺処分している事実もあります。神奈川県、熊本県、広島県等では殺処分ゼロを実現しており、東京都はオリンピックまでに殺処分をゼロに。名古屋市、尼崎市ではふるさと納税で保護された犬・猫の命を繋いでいます。要は、殺処分は税金を使うかどうかの問題。ボランティア団体が具体的な提案をしても自治体に意思がな



阿部憲一 議員

産業厚生 常任委員会

平成29年9月27日(水)～29日(金)

宮崎県東諸県郡綾町

～自然生態系農業(有機農業)の取り組みを学ぶ～



担当者から有機農業について説明を受ける(宮崎県綾町)

宮崎県綾町は消費者の健康と文化的な生活確保と健全な土づくりにより、農業の振興を図ることを目的に「自然生態系農業の推進に関する条例」を制定。自然生態系農業の基準と認証方法など、町が責任を持って本物の野菜を提供して行くシステムを確立しています。

地理的・自然条件を巧みに活用、適材適切に行政がリードされた「町ぐるみの取り組み」の成功例を享受してきました。

本町における行政・議会・農業団体・消費者等の連携取り組み、政策策定の重要性を認識する上で、大変貴重な視察研修でした。

行政運営

今後の具体策・町民との約束は



小磯利雄 議員

町長

①地域包括ケアや新たな雇用の創出、駅西側の商店街再生・活性化を進め、魅力ある農業に取り組みます。

さらに、居住エリア整備、地域ぐるみの教育・子育てや将来の人材育成に努めます。

②新たな住宅団地整備に着手しています。

③第一期は、新たなまちづくりの構築、雇用の確保や地域経済の活性化を、第二期は、住宅用地整備のため、用地取得を進め、近代農業ゾーンは、地権者や地域住民の意向を充分反映した土地利用を進めます。

④免除措置や無料措置の継続を強く要望し、小滝平浄水場の改修等生活基盤を整え、追加的除染、医療環境向上、福祉サービス、防災拠点整備事業を推進し安心の確立を、また教育環境の充実、子育てしやすい町づくり、さらに継続的な財源確保、農業経営基盤の安定化等発展、町政情報の共有・発信に努めます。

小磯

①今後の行政運営・改革全般の具体的策は、

②イノベーション・コースト構想、戦略として今後の展開概要は、

事業名・予算等は、

③駅東側二期及び農業ゾーン開発が公約に入っていませんがどのようになるのか。

④今後4年間町民との約束、生活再建・安心・教育・発展・情報の選挙公約「前進」についてお知らせ下さい。

財政運営

持続可能な財政運営の実現に向けた考えは

町長/歳入に見合う計画的な予算執行

小磯

①復興需要などで、現時点では健全性を確保していますが、人口減少や公共施設の老朽化対策、地域創生への取り組みなど財政需要が見込まれます。持続可能な財政運営の実現に向け、事業の選択と集中など適切な財政運営はどのように考えていますか。

②本町における予算編成の基本及び優先項目は、

町長

①歳入に見合った財政運営を年頭に、必要性や効果等の十分な検討、事業選択や積極的な見直し等、計画的な予算執行に努めることで持続可能な自立した財政運営ができるものと考えます。

②復興・再生事業を最優先、必要な財源措置は国へ要請、事業の必要性・優先度を十分に検証し限りある財源を重点的かつ効果的に活用することを基本方針とし、認定こども園整備、森林再生、ほ場整備、小滝平浄水場整備を優先項目と考えています。

米づくり

米づくりの取り組み、独自施策を進めよ

町長/国の制度対象以外は町の支援を検討

小磯

本町の米づくりについて、

①震災後、5年比較での収量・内容は、

②カメムシ被害が増大し防除対策が追い付いていない。震災以前、冬眠中の駆除が目的の「土手焼き」の再開は、

③国は4つの農業改革のもと、世界に通用する規模の拡大等にシフトしていますが、中山間地の多い本町農家は自立が困難な状況にある。町として生活環境整備・保全管理等に独自施策を進めるべきではないですが、

町長

①町は、平成25年度より営農を再開し、平成25年は110ha、収量547t、平成26年は157ha、収量818t、平成27年は161ha、収量791t、平成28年は161ha、収量788t、平成29年は163ha、収量844tの収量がありました。

②安定している放射性物質の流出が懸念され、研究を行っている国県と協議していきます。

③国の制度を活用し、活動の支援を行い多面的機能の確保や地域の活性化を図るとともに、地域の農用地、水路等保全管理の共同活動、農地の集積を後押ししており、支援の対象となっていない農地は町の支援を検討したいと考えます。

平成29年10月4日(水)～6日(金)

栃木県/道の駅みぶ、道の駅みかも

群馬県/道の駅川場田園プラザ、道の駅みなかみ水紀行館

新潟県/道の駅ちぢみ里おぢや

福島県/道の駅猪苗代

総務文教 常任委員会

～道の駅の地域振興及び防災拠点としての役割を学ぶ～

道の駅が道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供、地域に対する振興寄与を目的としていることから交通人口を増やし地域の経済効果に大きな役割を期待できる反面、地域力を活かした運営が出来なければ負の施設となる可能性を併せ持つ実態を調査できました。

また、道の駅はトイレや駐車場及びヘリポート等の大きな敷地を持つ防災拠点に位置づけることで、東日本



村の人口の3倍の人が訪れる「道の駅」(群馬県川場村)

大震災時に自衛隊の線基地や消防・警察の拠点となり、救援物資の中継基地として使用され、更には情報通信設備や非常用備蓄品を提供し被災者の「一時避難所」として活用され多くの人命を救った災害の拠り所となった事実も知ることができました。

今回の視察を通して、地域における「道の駅の役割」をどの様に考え、整備計画を進める必要があるか学ぶことができました。

広小児童が議会を見学

12月15日、広野小学校6年生14人のみなさんが、第4回定例会を見学に来ました。議員と町執行部との真剣なやりとりに耳を傾けていました。

ぼくは、議会を見学しての感想は、正直何しているのか分からなかったです。もらった紙を見て、少し分かりました。卒業式とか、学習発表会などに来ている人もいました。

私は、議会をぼうちようして思ったことは、裁判所みたいだなと思いました。理由は、私が見ている、会議は裁判を見ているようだと思ってしまいました。答弁では、真剣な話合いのあまりこわいと感じるところもありました。でも私は、議会の会議は、こうやってやっているんだなあと思いました。

私は、議会を初めて見学して、議会に参加している人は、すごいなと思った。一つ目は話し合う中で、自分の意見についてです。一人一人、自分の意見を言う人、その難しい質問に答える人、どちらもすごいなと思った。意見を持つことの大切さを学んだ。二つ目はみんなで、一つの意見にまとめること、なっとくしない人もいかもしれないけれど、最終的には、一つにまとめることで、この町がどんどん良くなってほしい。

ぼくは、議会を見に行ってすごいと思いました。質問する方もすごいけれど、ぼくは特に質問されて答える方が、言われたことにすぐに対応できていたので議会の前の日に質問を考えているのかと思いました。ぼくも国語の時間にこのような、話合いを目標にしてみたいです。

広野町は、色々な問題があって、多くの問題を1日で可決することはすごいなと思いました。私たちでも、時間がかかるのに、議会では数十分で可決したからです。質問に対する答えも冷静になって、答えていました。議員たちもはっきりと自分の意見を持っていて、その意見をはきはきと発言しているので私もそうなりたと思いました。あそこで広野町のためにたくさん決めるんだなあと思いました。また、行ってみたいです。

わたしは、議会を見て、あまりみんなが知らないところでこういった議会をひらいて町のいろいろなことを話し合い決めているんだなあと思いました。だからこういった会議は、すごいな会議だと分かりました。話を聞いていて、耳にしたことのない言葉ばかりでした。そして、わたしが一番おどろいたことは、聞いていた人が質問したことに対して発言した人がすぐに答えていたことです。だから議会の人はずいぶんすごいななあと思いました。

私は、役場の中にある議会を見学しました。まず、思ったことは内容が速く進んでいるなあと思いました。そして、質問がないときには、なしっというのだと分かりました。あと、質問をされる人が質問をする人の話に耳をかたむけて、質問された内容についてくわしく説明してくれるので、私も聞いてて、よく分かりました。なので議会の人達は、すごいなあとあらためて思ったし、少しあこがれにもなりました。



土屋 樹



渡邊 美優



横田 歌恋



小林 大希



赤井 晴香



牧ノ原梨織



鈴木 姫奈

ぼく達はこの前、議会を見に行きました。議会ではまずは町長さんが言ったことについて意見を言う。その時、「何番」と言ってから名前を言っていました。それからぼく達にできないことも言っていました。それは自分からびしっと手を挙げていたところ。それをこんどからまねをして、議会の人たちみたいに自分で手をびしっと挙げたいです。最後に話合いがすすら進むのもまねしたいです。

ぼくが、議会見学に行って思ったことは、すごくスムーズに進んでいると思いました。理由は、議長が正確に進行をしていったからです。それと自分の思ったことを議員はすぐに言っていたからです。考えている時間が長いと話合いが進まず解決しないからです。議員の質問に対してしっかりと答えているからすごいと思いました。だから質問をされることを予想して前もって質問の答えを考えておくことが必要だと考えました。

私は、初めて議会を見に行きました。役場の3階にありました。おじいちゃんが、議員だったのは知っていたけど、町の課題を解決するためにいろいろな議員や町長などと話合っていたことを初めて知りました。町の課題を無くして、町民が安心して暮らせるように、がんばってほしいです。けど、町の課題がたくさんあったことが初めて知りました。議員も納得するまで、質問し合っていました。

ぼくは、議会見学に行ったときに座るすが、ふわふわで、座り心地がよかったです。議員さんが、いっぱいいて、話すことがいっぱい、話している内容があまり分からなかったです。みんな、真剣に話していました。話がむずかしかったけど良い経験になりました。また議会見学に行ってみたいな—と思いました。

ぼくは、議会を見て、すごく速いテンポで進んでいき、議員さんから始まり、となりの課長さんにいき、町長さん、そしてそれぞれの説明の人といき、すごいなと思いました。言葉もむずかしすぎて、何を言っているのか分からなかったです。意見も何もなかったら議員のみなさまがいっせいに「なし」と言って団結力がすごいなと思いました。議会の場にすわっていても、すごく、きんちょう感があってオーラもあったので、すごいなと思いました。

私は、議会をやっているとき見学していて、いろんな人が来ていました。町長さんや学校教育課長・議長さんなどたくさんの方が集まってやるんだなあと思いました。おどろいたのは手をあげるとマイクにランプがつきスイッチが入るのが見たことがなかったのでおどろきました。議会では、たくさんのいろんな人が集まって意見を言ったり聞いたりするんだなあと思いました。

議会の感想は、初めて行った所だったけれど、話の内容はだいたい分かりました。町の代表の人と人が討論をしていました。議会とは、とても大切なことでなくてはならない存在だと気がきました。実際の議会の様子が見れてよかったです。この議会見学は、自分にとって大きな体験で議会見学をいかしていきたいです。ぼくは、この議会見学が必要なことだと思いました。



坂本 大星



島村 晃登



坂本 朱羽



坂本 聖哉



木幡 温人



吉田ゆきな



坂本 遥斗



米作りの大きな転換点を迎えて 減反政策廃止と本町農業再建に想うことは!!

日本の米作りは今年大きな転換点を迎えます。生産過剰より値崩れを防ぐ狙いで、国が生産数量目標の指示配分から手を引き、各地域が自主的に作付面積や生産量を定める政策に移行されます。昭和46年から47年続いた生産調整、いわゆる「減反」が廃止されます。本町農家の再建に必要な感想をお伺いしました。



芳賀 吉幸 さん
(上浅見川)

これまで、「地域で支え合
い農業を元気に！」のもと、
各機関と連携より、いろん
な作物に挑戦し、町おこし
を行ってまいりました。

約7年前の震災・原発事
故による復興途上の中、減
反政策の廃止はWパンチの
状況である、中山間地の本
町で、国が進める強い農業、
輸出倍増等のバラ色の農業
には無理がある。駅東側農
業ゾーンの完成はいつにな
るのか、農業経営の根幹を
揺るがし地域社会の存続に
関わる中、実態に合う農業
政策を期待したい。



矢内 豊 さん
(折木)

先月上旬本町における29
年産米検査の集計がしまし
た。残念ながら入荷された
うるち米では一等米23%、
二等米77%とカメムシの吸
汁加害による斑点米の影響
が大きかった。郡内では本
町だけの傾向であり早急な
対策を願いたい。

生産調整の廃止につい
て、国は県単位で独自にコ
メの生産計画を作ることが
認められており現時点では
「様子見」の状況であるが、
ほ場整備を進め、自由な発
想で新たな技術や栽培方法
により、価格競争力や付加
価値を高めることが求めら
れます。

編集後記

皆様におかれましては、輝かしい新春を迎えられましたことお慶び申し上げます。
東日本震災と原発事故から間もなく7年を迎えようとしています。
町としては、昨年は3月末をもって応急仮設、借上げ住宅の供与期間が終了し、帰町から再建へと新たな町づくりのスタートを切った年でありました。
今年は、夏頃にJウィレッジの一部再開、認定こども園の整備、県事業であるふたば未来学園中学、高校の整備等の取り組みが計画されております。
また、「健康II元氣」の視点で健康寿命を延長するなど、「元氣な町づくり」を行政と一体となり推進していきたいと思いますので、皆様には一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。
(北郷 幹夫)



発行・編集責任者
議長 黒田政徳
広報委員会
委員長 塩 史子
副委員長 阿部憲一
委員 北郷幹夫
委員 小磯利雄
委員 遠藤 浩

次の定例会は3月です

